

## 「職場とのコミュニケーション」

就職指導部 今城 慎一郎

社会人が円滑に職務を遂行していく上で、大切な物の一つに“コミュニケーション”があります。特に、直属の上司への報告・連絡・相談（ホウ・レン・ソウ）は、欠かすことのできない要素と言えます。（新入社員が徹底的に教育される部分）

実社会へ巣立っていく上で、最も不安なものがコミュニケーションだけに、家庭（協力体）としては常に正しい状況を知っておく必要があります。

進路決定をする時に、清水副校長より「ご両親における最善の職場と、本人における最善の職場は必ずしも一致しません。本人がいかにかやりがいを持って働くことができるかを第一に考えて下さい。」というお話があります。就労後もこの考え方は、継続していかなければなりません。

採用をした側には、「後は全て職場にお任せ下さい」という責任があるはずですが、しかし、任せきりという訳にはいきません。「大丈夫ですよ」という社交辞令的な表現に安心しないで下さい。職場には、引き受けた以上、些細なことを家庭に相談する訳にはいかないという変な責任があるのです。

例えば、「帰宅時間が不規則である」「必要以上に買い物をしている」「作業服等の汚れ方が普段と違う」「就寝時間が遅い」等、生活面での乱れがあるときは、職場からの信号が発せられていると察知する敏感さが、こんな時代だからこそ望まれるのかも知れません。

何か普段と違う様子を感じた時には、あまり親が出過ぎてもと遠慮する前に、是非仕事を覗いてみてあげて下さい。その時、職場の皆さんに直接仕事を聞くことができれば、よりよい環境を設定していくことができます。

「もう大丈夫ですよ。そんなに心配なさらなくても十分に頑張っていますから。もし、問題があればこちらから連絡しますから」というような心強い反応を頂けるまで、気は抜けないのです。この状態になって初めて定着の可能性が出てくるのです。必ず、問題を大きくする前に察知してあげて下さい。大きくなってからでは取り返しのつかないこともあります。

職場によっては、頻繁な挨拶を敬遠される場合もありますので、見極めをきちんと付けていくところから末永いお付き合いを始めていくことをお勧めします。定着のために、本人が苦手なコミュニケーションを家庭で補っていくことを忘れないで下さい。